

ここすき！特別企画 幼稚園に行ってきました！

国立富士見台団地幼児教室 風の子（幼稚園類似施設）訪問インタビュー

国立富士見台団地幼児教室 風の子は、富士見台第3団地内の広々とした敷地の中にあります。開設は1967年。当時の幼稚園は4・5歳児の保育が主流だった為、3歳児にも保育経験をさせたいという思いの母親たちが集まって始めました。



団地の敷地をぐるっと遊べる広さ。

<保育目標>

「思いっきり遊べる元気な子」

<保育姿勢（3つの柱）>

「既成の教材をなるべく使わず、創造性を伸ばすこと」

「戸外遊びを重視すること」

「異年齢保育に積極的に取り組むこと」



子どもたちは木登りも大好き！

「思いっきり遊べる」広さが自慢のひとつでもあります。

園舎のまわり、どこでも遊べます。禁止事項はなるべく少なく、身近な自然に接してのびのびと遊べるようにと、保育者も保護者も考えています。木登りしたり、木に実がなれば収穫したり。収穫した梅で、ジャム作りをすることもあります。

(大切にしていること)

子どもが自ら考えるということを大切にしています。たとえば、毎年、年長さんが行う園舎でのお泊り保育の夕食メニューは自分たちで考えます。ラーメンや手巻き寿司とさまざまですが、自分の希望するメニューになるためには、自分の言葉でそのメニューの魅力を伝えて、仲間を説得させなくてはなりません。

そのやりとりを通して、自分の考えを話すこと、友だちの気持ちを聞くことをたくさん経験します。運動会でのリレーの走る順番も、相撲大会の対戦相手も自分たちで話し合っていて決めています。



保護者の方、お手製のキッチンとロッカー



昨年 50 周年時に製作

大人から言われたことだけをするのではなく、子どもが自らやりたいことのアイディアを出し合い、やり遂げた行事の楽しさは、卒園したあとにも残ります。

「またお泊り会したい！」という声があがり、卒園児のためのサマーキャンプを実施するようになって4年目になります。

卒園した子どもたち、保護者が集まって、保育者とともに全員参加の水かけっこやナイトハイクなど、楽しい時間を過ごします。



全園児で製作した壁面画

(風の子の特徴は自主運営)

風の子の大きな特徴としては、保護者、保育者、事務局(OBの保護者が担当)が上下関係を作らずに運営していることです。

つまり、園長がいる一般的な幼稚園とは異なり、保護者、保育者、事務局が協力しあって、自主運営・自主管理をしています。父母会や保育者会議では、いつも「子どもが楽しいことは何か」や「子どもたちがそれぞれ輝く場面はどこか」を考えて話し合っています。

保護者は、日常の保育の中でも、散歩や遠足の付き添い、絵本の読み聞かせ、調理保育の手伝いなど、子どもたちと一緒に活動する機会が多くあります。

園舎で子どもたちが使うものにも、保護者の手作りのものがいくつもあります。裁縫、音楽、力仕事など、保護者はそれぞれ得意な分野で力を発揮しています。風の子の子どもたちは、保護者、保育者、事務局、そして地域の人たちと、たくさんの大人たちに囲まれて育っていきます。

運動会にしても、保護者も子どもたちも、ほかの学年の競技をじっくり観戦できるように、1つの競技が終わってから次の競技の準備をするそうです。保護者は、自分の子どもだけでなく、ほかのどの子どもにも声援を送り、それぞれの成長した姿を喜び合うのです。



「毎日の遊びの中で、風の子の子どもたちには、自分たちで遊びを作り出す力が育っていきます。晴れでも雨でも雪でも、外に飛びだし、駆けまわる。そんな『思いっきり遊べる元気な子』になっていきます」と4人の先生たちが笑顔で話してくれました。

※幼稚園のホームページは市役所ホームページからもご覧になれます。

国立市ホームページ→子育て支援ページ→子どもを預ける→幼稚園→国立市幼稚園等一覧